

# 個人投資家様向け 会社説明会

平成22年度 第2四半期

平成22年7月12日



Process Technologies for Tomorrow

ホソカワミクロン 株式会社

代表取締役社長 CEO 宮田 清巳

<http://www.hosokawamicron.co.jp/>

## 1. 企業の概要

2. 決算の概要

3. 今後の取り組みと展望

粉体とは…

**粉体**は、実際は静止していれば、「**固体**」であるが…

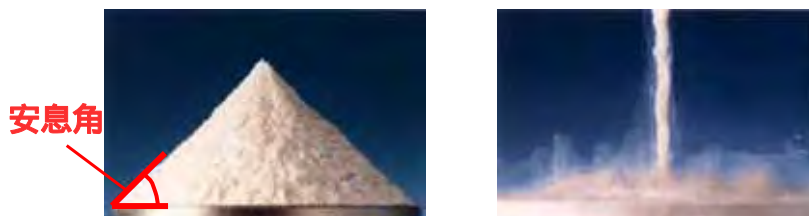
砂時計の砂のように流れると、「**液体**」の性質をもつ

煙や塵のように浮遊すると、「**気体**」の性質をもつ

**非常に不思議な存在である**

「**粉体**」は、**固体・気体・液体に次ぐ「第4の存在」**

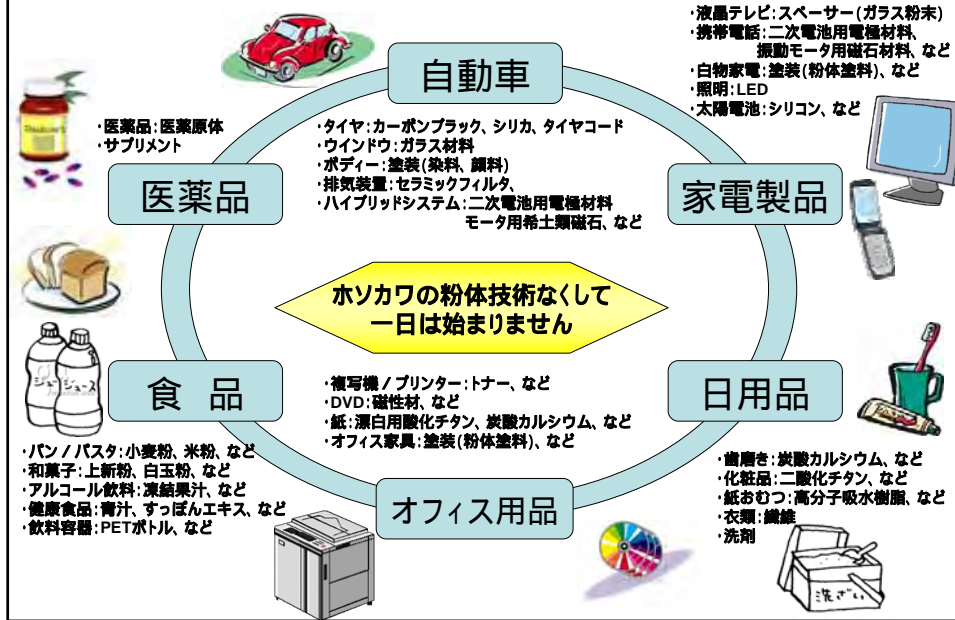
実際は固体だが、大きさや形状によって液体や気体の性質を現す、不思議な存在である「粉体」



通常の粉(数十から数百ミクロン)の安息角は、45度前後ですが、粒度など様々な条件により、まるで「液体」のようになります。

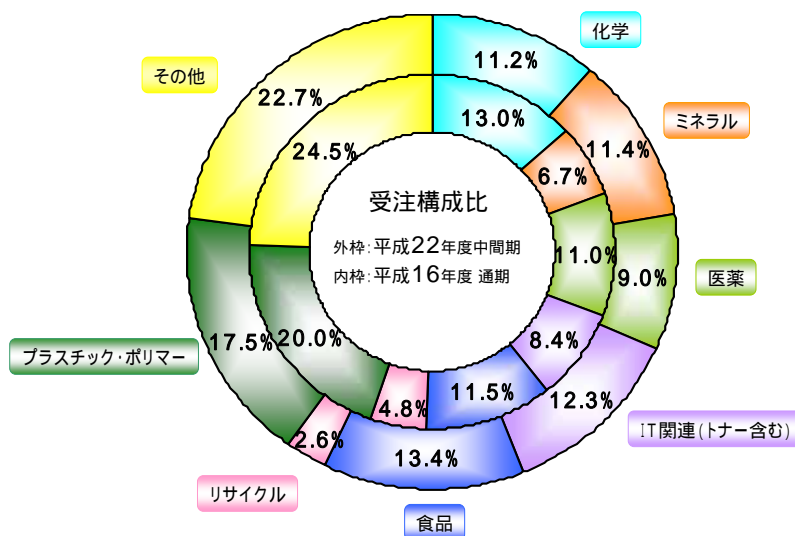
タバコの煙となる微粒子は、直径が500ナノメートル(2000分の1ミリメートル)前後の粉体ですが、その挙動は「気体」そのものです。

現代社会は“粉体”の塊



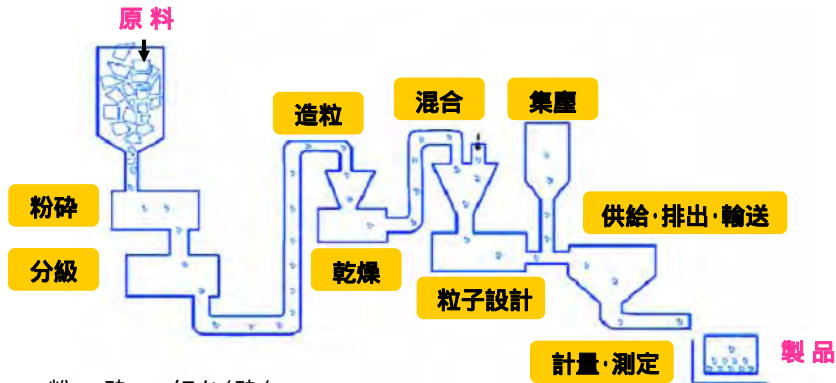
業種横断的に利用される粉体技術

当社の業種別受注構成比の動向 (連結) ~ 5年前との比較 ~



特定の業種・企業に依存していません。

あらゆる粉を制御するホソカワミクロングループの粉体技術



- 粉 砕 : 細かく砕く
- 分 級 : 粉をふるい分ける(必要なサイズを取り出す)
- 混 合 : 複数の粉などを混ぜる
- 乾 燥 : 湿った粉を乾かす
- 造 粒 : 粉を固めて粒にする
- 粒子設計: 粉の形を変えたり、複合化して粉の性質を変える

会社概要 (2010年3月現在)

創 業 : 1916年(大正5年) 4月  
 設 立 : 1949年(昭和24年) 8月  
 資 本 金 : 144億9600万円  
 株 式 : 東京・大阪証券取引所 一部上場  
 従 業 員 : 連結 1397名 / 単体 370名  
 決 算 月 : 9月

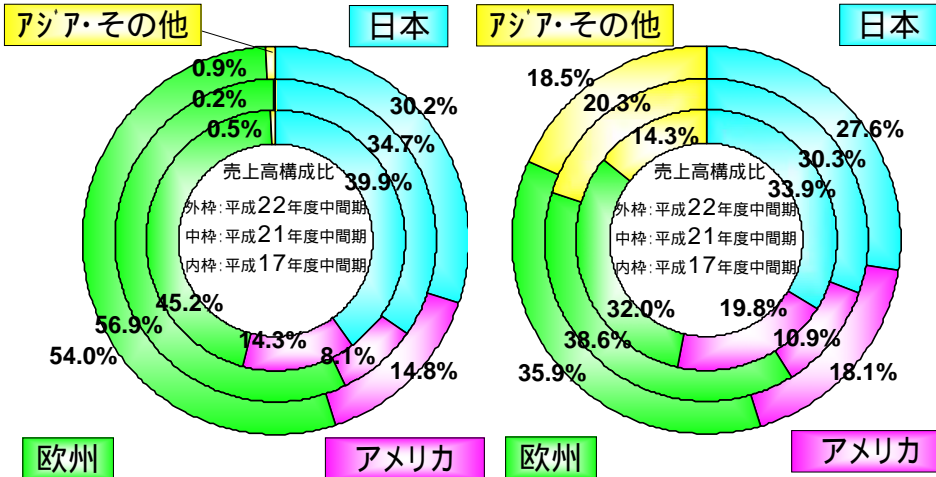
海外売上比率:約70%



地域別の売上高 (連結)

所在地別売上高比較

納入地域別売上高比較



ホソカワミクロン 94年にわたる粉体技術展開の歴史

**創業期** 1916年(大正5年) 細川永一、細川鉄工所を創業

**発展期 (1928 ~ 1981)**

<粉体工学という学問としての取り組み開始>

- 1957年(昭和32年) '粉砕'誌創刊
- 1958年(昭和33年) 細川粉体工学研究所 設立

<海外展開の開始>

- 1960年(昭和35年) ホソカワ インターナショナル社を設立
- 1972年(昭和47年) ホソカワヨーロッパ設立(イギリス)

**飛躍期 (1982 ~ 1998)**

<M&Aによる海外展開を推進>

- 1982年(昭和57年) ナウタミックス社(オランダ)をM&A
- 1985年(昭和60年) USフィルターシステムズ社(アメリカ)をM&A
- 1987年(昭和62年) アルピネAG(ドイツ)をM&A
- 1992年(平成4年) ビーベックス社(ドイツ)をM&A

**新たな成長ステージへ**

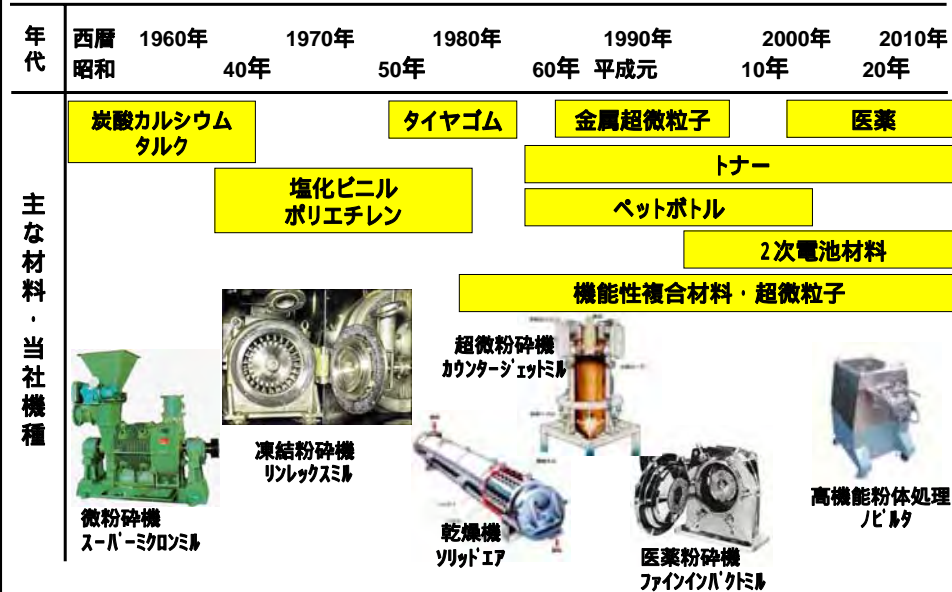
<“ナノ”の次代への対応>

- 2003年(平成15年) “ナノパーティクルテクノロジー”創刊
- 2006年(平成18年) “ナノパーティクルテクノロジーハンドブック”発刊

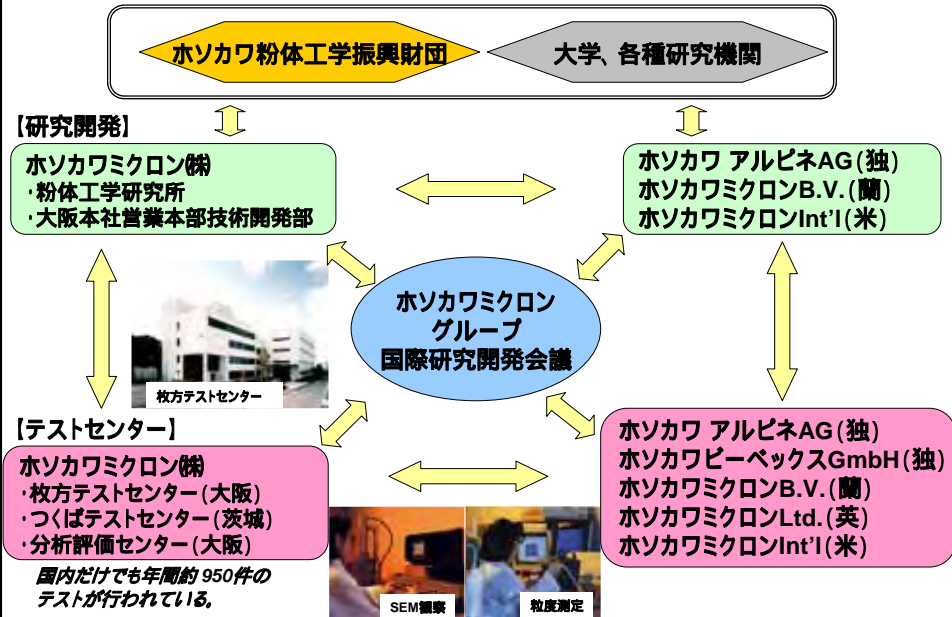
<新たな成長に向けて>

- 2007年(平成19年) 新本社ビル 完成(大阪・枚方市)
- 2009年(平成21年) つくば受託加工センター完成
- アルピネAG(ドイツ)新工場建設工事完成

時代と共に移り変わる材料とホソカワミクロンの技術開発



ホソカワミクロンの粉体技術を支える研究開発とテストセンター





## 平成22年第2四半期 決算のポイント

### (決算全般)

#### 1. 減収減益(対前年同期比:売上高 19.9%、営業赤字に)

(1) 期首受注残高が少なく(対前年比 7,292百万円)、当初より減収・減益を予想

(単位:百万円)

	実績	公表値	差異
売上高	14,415	13,500	+915
営業損益	468	400	48
経常損益	465	425	40
中間純損益	543	500	43

(2) 第2四半期(1~3月期)では黒字に転換

(3) 売上総利益率は対前年同期比で3.7%pの悪化

海外(プラスチック薄膜事業/米国)での在庫評価減(129百万円)

0.9%pの悪化要因

一部大型案件における低採算案件数件の存在 1.7%pの悪化要因、等

(4) 販管費は対前年同期比で大幅減(10.0%)

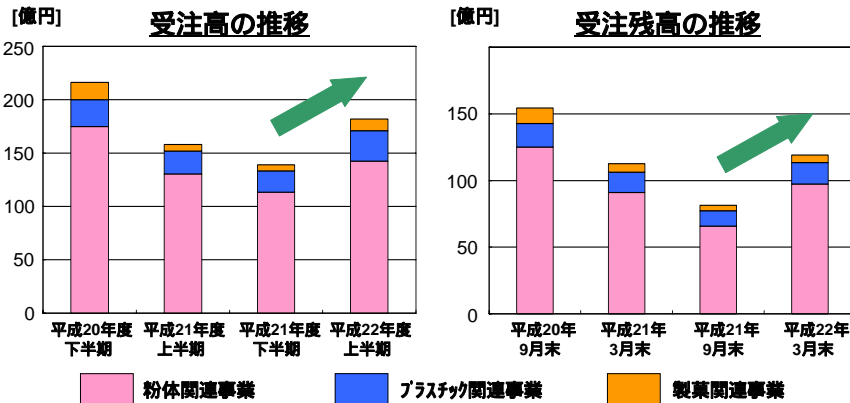
(5) 工事進行基準適用金額の変更により売上高は417百万円の減少、営業損失は125百万円の増加

平成22年第2四半期 決算のポイント

(決算全般)

2. 受注は回復基調(対前年同期比+15.2%、直近6ヶ月比+30.8%)

- (1) 平成21年度第2四半期(平成21年1~3月)をボトムに受注は回復基調
- (2) 受注の回復に伴い、平成22年下半年への繰越受注残高は期初に比べ3,760百万円の増加



連結業績 / 総括

(単位:百万円)

	平成21年度 中間期		平成22年度 中間期		前年 同期比	平成21年度 通期	
	実績	%	実績	%		実績	%
受注高	15,790	-	18,191	-	115.2%	29,700	-
受注残高	11,272	-	11,899	-	105.6%	8,139	-
売上高	18,000	100.0	14,415	100.0	80.1%	34,874	100.0
売上原価	11,647	64.7	9,854	68.4	3.7P増	22,760	65.3
売上総利益	6,352	35.3	4,561	31.6	3.7P減	12,114	34.7
販管費	5,590	31.1	5,030	34.9	3.8P増	10,726	30.8
営業利益	762	4.2	468	3.2	7.4P減	1,387	4.0
経常利益	734	4.1	465	3.2	7.3P減	1,301	3.7
特別損益	165	0.9	9	0.1	0.8P増	289	0.8
中間(当期) 純利益	141	0.8	543	3.8	4.6P減	479	1.4

対前年同期比

	売上高	営業利益
為替差	170	-23
数量差等	-3,755	-1,207
合計	-3,585	-1,230

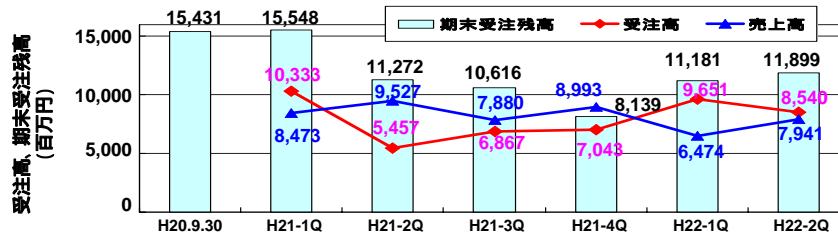
	平成21年度 (中間期)	平成22年度 (中間期)
EURO	124.27円	129.15円
\$	94.96円	90.21円



連結業績 / 総括 (四半期毎の推移)

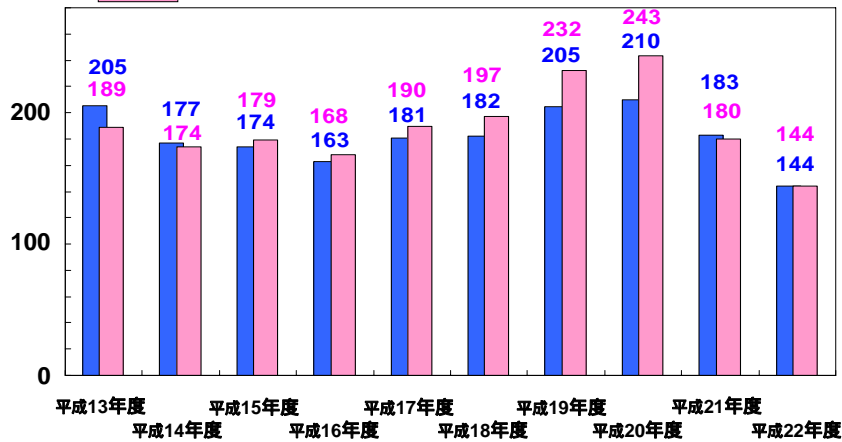
(単位:百万円)

	H21年度 第1Q			H21年度 第2Q			H21年度 第3Q			H21年度 第4Q			H22年度 第1Q		H22年度 第2Q	
	実績	実績	対前Q	実績	対前Q	実績	対前Q	実績	対前Q	実績	対前Q	実績	対前Q	実績	対前Q	
受注高	10,333	5,457	52.8%	6,867	125.8%	7,043	102.6%	9,651	137.0%	8,540	88.5%			8,540	88.5%	
受注残高	15,548	11,272	72.5%	10,616	94.2%	8,139	76.7%	11,181	137.4%	11,899	106.4%			11,899	106.4%	
売上高	8,473	9,527	112.4%	7,880	82.7%	8,993	114.1%	6,474	72.0%	7,941	122.7%			7,941	122.7%	
営業利益	86	848		53		679		559		91				91		
経常利益	165	899		62		629		577		112				112		
純利益	521	662		17		321		684		141				141		



為替の影響 / 中間期における売上高

■ 1 \$ = 90.21 円, 1 EURO = 129.15 円で換算  
 [ 億円 ] ■ 各年度の為替レートで換算



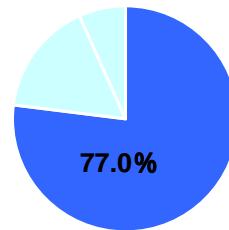
データは各年度の中間期(各年度10月から翌3月)の値です。

3つの事業 / 粉体関連事業 粉体処理装置の製造販売、システムエンジニアリング

粉砕・分級装置、  
混合・乾燥装置を中心に  
当社グループの主力事業



- ・新規機械販売部門  
客先ニーズにあった粉体機器の製造・販売
- ・メンテナンス部門  
納入機のアフターメンテナンス・部品販売
- ・受託加工部門  
豊富な機種と経験で、お客様に代わり生産



2010年度上半期  
事業別売上比率

平成22年第2四半期 決算のポイント / 【事業の種類別】セグメントの状況

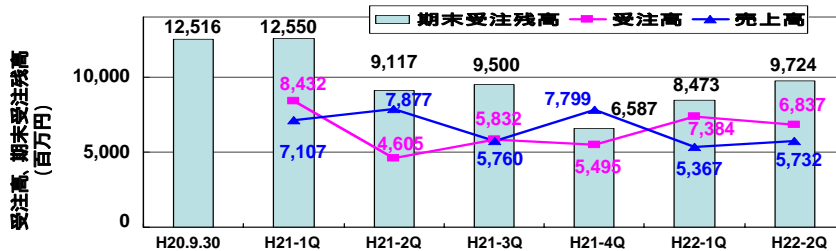
(粉体関連事業)

(百万円)

	平成21年度 中間期		平成22年度 中間期		差異	
粉体関連事業	14,984		11,100		3,884	
(環境関連事業含む)	1,612	(10.8%)	243	(2.2%)	1,369	( 8.6%P)

(注) 上段は外部売上高、下段は営業利益、( )内は営業利益率

- ・ 期初注残が少なく対前年同期比で減収に ( 25.9%)
- ・ 減収に伴い減益に (対前年同期比 84.9%)
- ・ 受注は回復基調 (対前年同期比 +9.1%)
- ・ 平成22年度下半期への繰越注残は9,724百万円 (対平成22年度期初比+3,137百万円)



3つの事業 / プラスチック薄膜関連事業 プラスチック薄膜製造装置の製造販売、エンジニアリング

- ・バリア機能や強度を備えた多層高機能性フィルム製造装置の開発・製造・販売を展開
- ・独自に開発した制御ソフトにより、お客様ニーズに応じた3層～9層の様々なフィルムの製造が可能

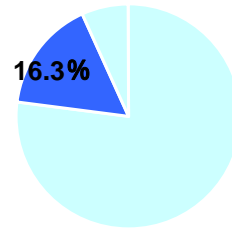


フィルム

携帯電話・液晶テレビ  
などスクリーン用保護フィルム



スタンドアップ型の  
パウチ



2010年度上半期  
事業別売上比率

平成22年第2四半期 決算のポイント / 【事業の種類別】セグメントの状況

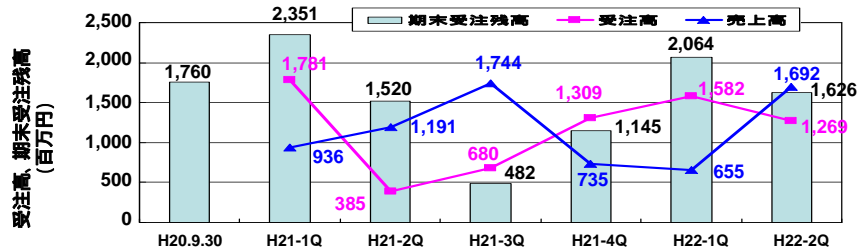
(プラスチック薄膜関連事業)

(百万円)

	平成21年度 中間期		平成22年度 中間期		差異	
プラスチック 薄膜関連事業	2,128		2,348		220	
	154	( 7.2%)	178	( 7.6%)	24	( 0.4%P)

(注) 上段は外部売上高、下段は営業利益、( )内は営業利益率

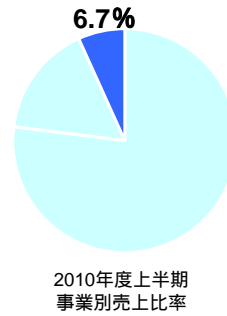
- ・主力市場(欧米)の回復、アジア市場の開拓成果により受注は対前年同期比+31.6%
- ・期初の注残不足を期中の受注増で挽回し、売上高は対前年同期比10.3%の増加
- ・増収となるも売上の絶対額不足と在庫評価減(129百万円)の影響などにより赤字幅は拡大(前年中間期: 154百万円 本年中間期: 178百万円)



3つの事業 / 製菓装置関連事業

ハードキャンディー、チョコレートバー、シリアルバーなどの製菓装置の製造販売、エンジニアリング

- ・大手製菓企業と一体となった製品開発
- ・一貫した生産システムを提供
- ・ドイツ/ラインガルテンに  
新テストセンター建設中



平成22年第2四半期 決算のポイント / 【事業の種類別】セグメントの状況

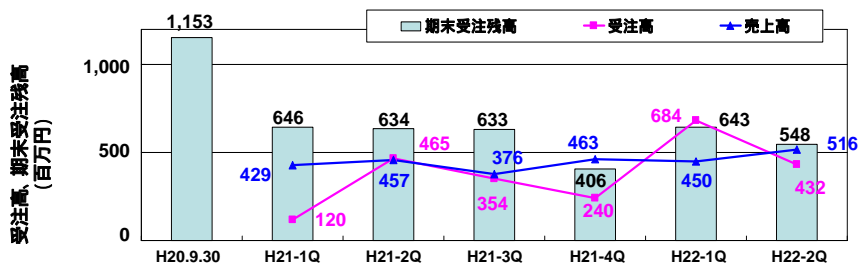
(製菓関連事業)

(百万円)

	平成21年度 中間期		平成22年度 中間期		差異	
製菓関連事業	887		967		80	
	210	( 23.7%)	47	( 4.9%)	163	( 18.8%P)

(注) 上段は外部売上高、下段は営業利益、( )内は営業利益率

- ・ 前年同期の極度の低迷から受注は回復(対前年同期比 +90.7%の受注)
- ・ 期初の注残不足を期中の受注増で挽回し売上は対前年同期比9.0%の増加
- ・ 昨年度中に赤字部門を清算したこと、増収により赤字幅は縮小



平成22年第2四半期 決算のポイント / 【所在地別】セグメントの状況

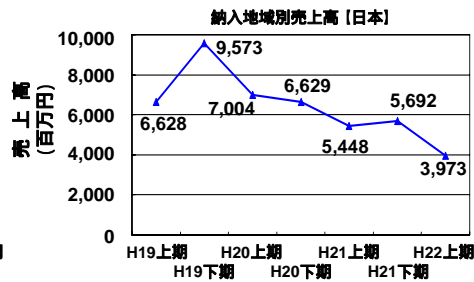
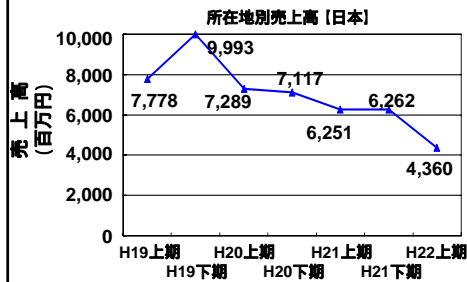
(日本)

(百万円)

	平成21年度 中間期		平成22年度 中間期		差異	
日本	6,251		4,360		1,891	
	996	(15.9%)	294	(6.7%)	702	( 9.2%P)

(注) 上段は外部売上高、下段は営業利益、( )内は営業利益率

- ・ 期初注残の不足により当初から減収を予想。但し、期初予想は上回る。
- ・ ホソカワミクロン(株)単体における受注は二次電池向け、医薬向け、磁石向けなどを中心に回復基調
- ・ 大幅な減収に伴い、営業利益は対前年同期比 70.5%



平成22年第2四半期 決算のポイント / 【所在地別】セグメントの状況

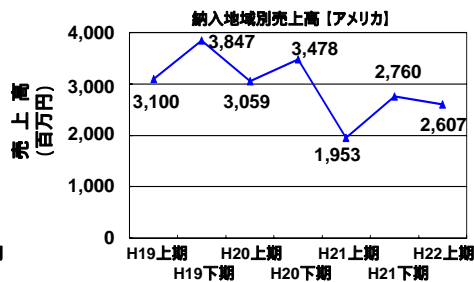
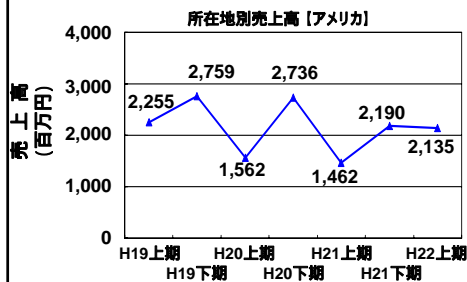
(アメリカ)

(百万円)

	平成21年度 中間期		平成22年度 中間期		差異	
アメリカ	1,462		2,135		673	
	62	( 4.2%)	168	( 7.9%)	106	( 3.7%P)

(注) 上段は外部売上高、下段は営業利益、( )内は営業利益率

- ・ 出荷が進み粉体部門、プラスチック薄膜部門ともに増収。
- ・ 全般的に設備投資意欲に大きな改善傾向は見られないが、粉体部門では二次電池向け大型案件の受注成約により受注は大幅増加。
- ・ プラスチック部門での在庫評価減(129百万円)等により赤字が継続



平成22年第2四半期 決算のポイント / 【所在地別】セグメントの状況

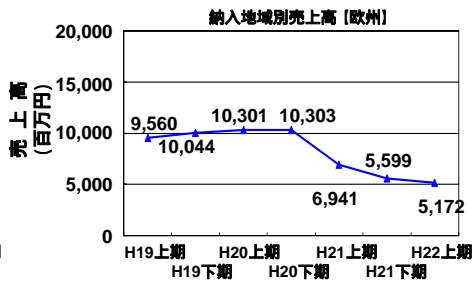
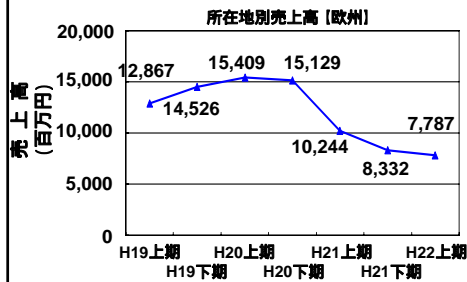
(欧州)

(百万円)

	平成21年度 中間期		平成22年度 中間期		差異	
欧州	10,244		7,787		2,457	
	415	(4.1%)	112	( 1.4%)	527	( 5.5%P)

(注) 上段は外部売上高、下段は営業利益、( )内は営業利益率

- ・ 期初注残の不足により当初から減収を予想。期初予想は上回る。
- ・ 欧州内主要子会社における受注は回復基調  
例: H-AAG社(独) 当中間期受注実績+43.8%(対前年同期比)



平成22年第2四半期 決算のポイント / 【所在地別】セグメントの状況

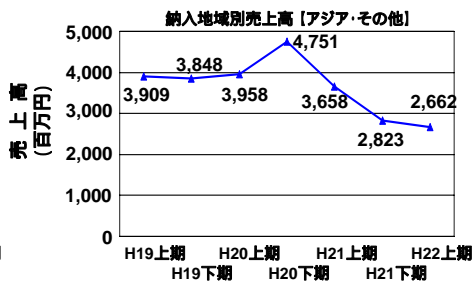
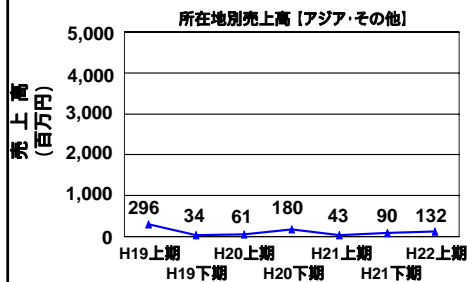
(アジア・その他)

(百万円)

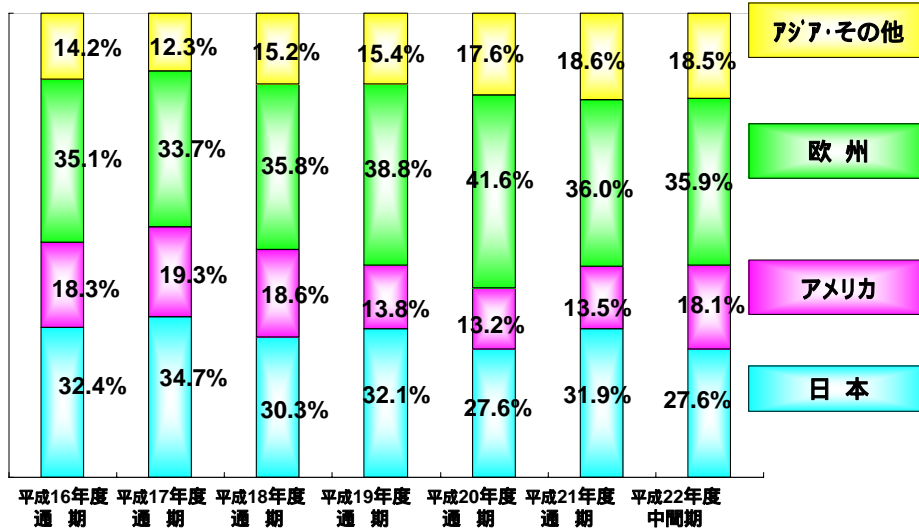
	平成21年度 中間期		平成22年度 中間期		差異	
アジア・その他	43		132		89	
	27	(62.8%)	12	(9.1%)	15	( 53.7%P)

(注) 上段は外部売上高、下段は営業利益、( )内は営業利益率

- ・ 現地調達部分の増加により大幅な増収となるが、コミッション収入の比率が相対的に低下し、利益率(営業利益)は低下。



## 納入地域別売上高の推移（連結）



## 財務諸表 / バランスシート（連結）

(百万円)

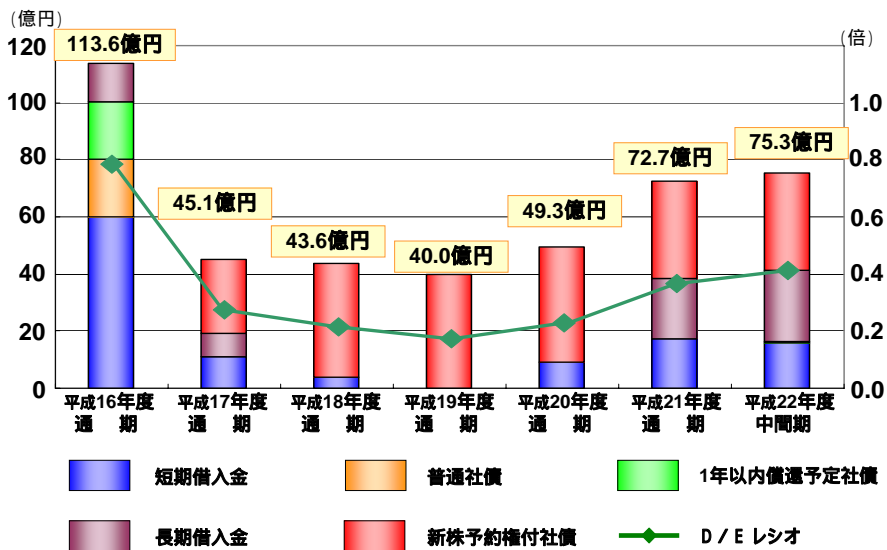
	平成18年度 通期	平成19年度 通期	平成20年度 通期	平成21年度 通期	平成22年度 中間期
流動資産	26,875	31,662	25,362	22,304	21,697
有形固定資産	13,662	16,105	16,386	16,562	16,009
無形固定資産	3,161	3,494	3,221	183	191
投資その他の資産	1,625	1,812	1,570	1,296	1,230
繰延資産	46	23	12	8	5
<b>資産合計</b>	<b>45,370</b>	<b>53,098</b>	<b>46,553</b>	<b>40,355</b>	<b>39,134</b>
流動負債	14,395	18,271	14,284	10,444	9,977
固定負債	8,415	8,730	8,387	9,726	9,991
純資産	22,559	26,095	23,881	20,185	19,165
<b>負債資本合計</b>	<b>45,370</b>	<b>53,098</b>	<b>46,553</b>	<b>40,355</b>	<b>39,134</b>

## 財務諸表 / キャッシュフロー (連結)

(百万円)

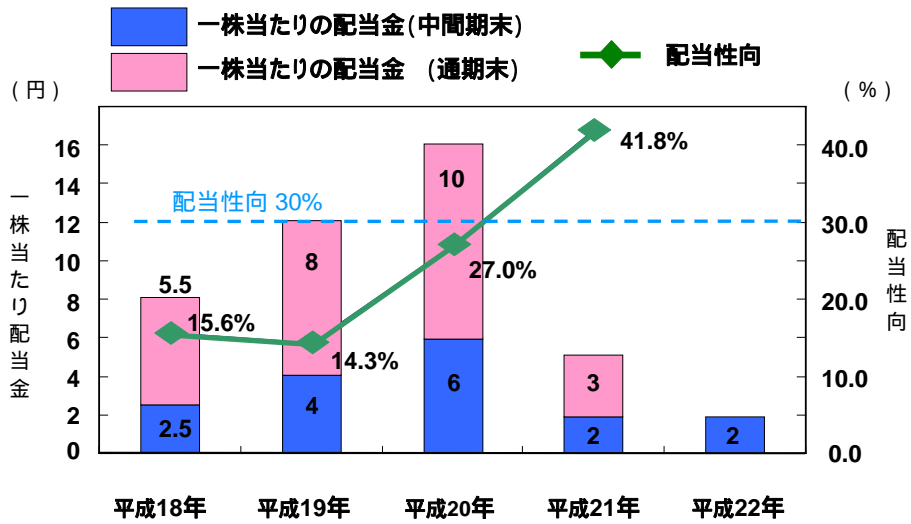
科目	平成21年度 中間期	平成22年度 中間期	増減	平成21年度 通期
営業活動によるキャッシュフロー	740	993	253	3,069
投資活動によるキャッシュフロー	1,062	213	849	2,164
財務活動によるキャッシュフロー	647	152	495	2,361
現金及び現金同等物に係る換算差額	337	65	272	335
現金及び現金同等物の増減額	12	886	898	2,930
現金及び現金同等物の期首残高	4,208	7,138	2,930	4,208
現金及び現金同等物の期末残高	4,195	8,004	3,809	7,138

## 財務諸表 / 有利子負債の残高と D / E レシオ (連結)

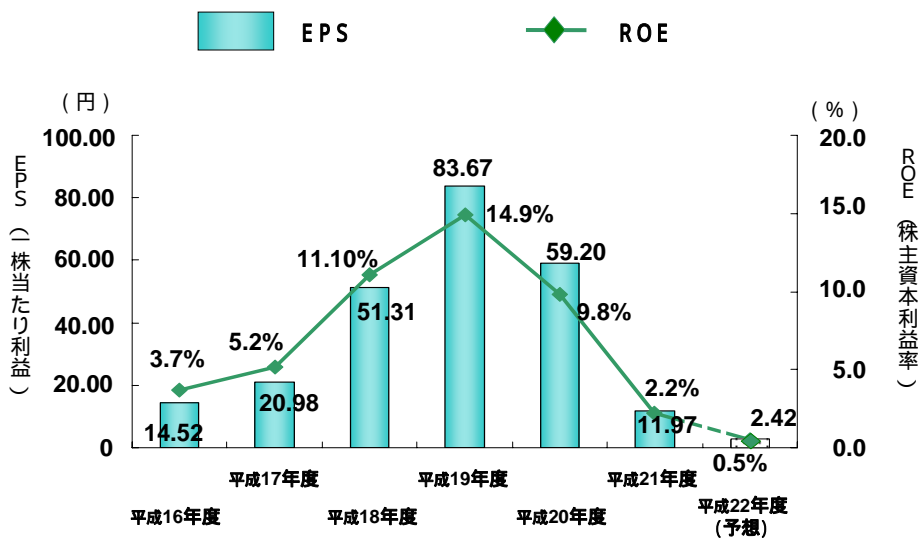




財務諸表 / 一株当たり配当金 及び 配当性向



財務諸表 / EPS & ROE





## 経営ビジョン

### 粉体技術連峰の形成

粉体技術の多様性、発展性を前提にすれば、単なる機械メーカーでは顧客の日々高度化していく要望に100%応える事は困難です。高度なエンジニアリング力を活用して、高性能な製品群を顧客の期待に応えるシステムとして提供する企業像が、ホソカワミクロンの経営ビジョンに謳われている“粉体技術連峰”です。高い技術力に裏付けられた製品群とそれらを繋ぐエンジニアリング力を、高峰が聳え立つ連峰をイメージして“粉体技術連峰”と表現しています。



企業理念・基本方針

[企業理念]

粉体技術を通して世界の産業に貢献する

[基本方針]

技術開発、国際化、人材の育成



新興国市場への経営資源の投入  
環境・エネルギー分野への取組強化



ステークホルダへの還元

経営課題 / 第13次中期(平成21年度～23年度)計画 課題と進捗状況

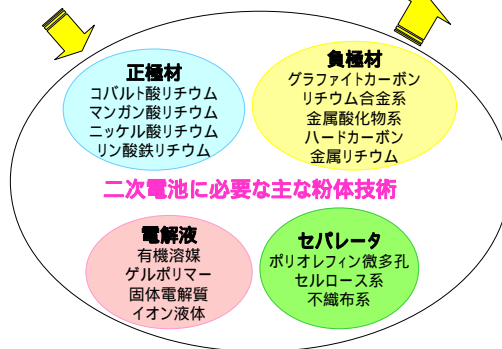
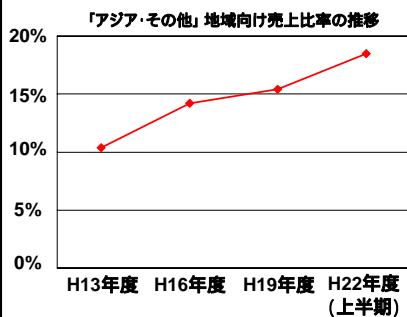
粉体技術連峰の更なる成長、進化(1)

1. 成長、収益力向上、企業ガバナンス強化の同時達成

- ・リーマンショック後の経営環境の激変により、収益環境は悪化。収益計画は未達。
- ・アジア市場や二次電池市場など、成長市場 / 分野への経営資源の集中して回復を図る。
- ・原価 / 経費の削減を継続中。
- ・内部統制制度の充実に注力

ホソカワの技術  
粉砕・分級・混合・複合化

小型・高出力・高性能化



経営課題 / 第13次中期(平成21年度～23年度)計画 課題と進捗状況

粉体技術連峰の更なる成長、進化(2)

- 2. 粉体技術のトップ企業として、オンリーワン技術の開発促進
  - ・グループの国際R&D会議開催(今年は5月に開催。前身の会議から数え25回目を迎える)
  - ・第16回ホソカワ粉体工学シンポジウムの開催(平成21年12月8日)

第16回ホソカワ粉体工学シンポジウムの概要

テーマ: 電池性能向上の鍵を握る粉体技術  
 講演内容: 右記  
 開催日: 2009年12月8日  
 開催場所: ホソカワミクロン(株)枚方本社  
 参加人数: 134名  
 主催: 粉体技術懇話会  
 後援: ホソカワミクロン(株)

講演1  
 電池性能向上に果たす粒子構造制御の役割  
 首都大学東京 教授 金村 聖志 氏

講演2  
 太陽光発電と粉体技術の展開  
 電力中央研究所 主任研究員 宇佐美 章 氏

講演3  
 二次電池の電極材料と粉体技術  
 三洋電機株式会社 モバイルエネルギーカンパニー  
 エナジー研究所 所長 藤谷 伸 氏

講演4  
 電池の性能と品質向上を支える粉体プロセスの役割  
 ホソカワミクロン(株) 研究所長 横山 豊和

閉会挨拶  
 ホソカワミクロン(株) 会長 細川 益男

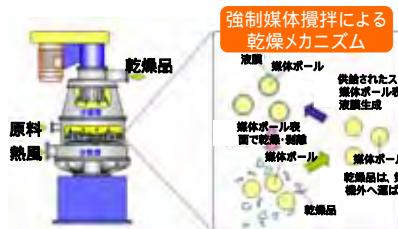
見学会  
 分析センター、電池関係等粉体プロセス機器展示、化粧品・青毛剤コーナー

経営課題 / 第13次中期(平成21年度～23年度)計画 課題と進捗状況

粉体技術連峰の更なる成長、進化(3)

- 3. 新製品新技術の事業への投入(1)
  - ・新型機器の導入(2010年度上半期導入機種)
  - 造粒機:ホソカワ/シュギフレキシミックス(右)**

特徴: 液添比率の高い湿式造粒を安定的かつ連続的に  
 行なうことが可能  
 用途: 化学、ミネラル、金属、食品、医薬品分野など  
 価格: 17百万円～40百万円



媒体攪拌型気流乾燥機:ホソカワ/ミクロン  
**ゼルピス(XERBIS)**

特徴: これまで困難であったスラリー原料でも安定した運転が可能  
 用途: 電池材料、電子材料、磁性材料、セラミックスなどの先端的材料の連続乾燥  
 価格: 10百万円～60百万円

経営課題 / 第13次中期(平成21年度～23年度)計画 課題と進捗状況

## 粉体技術連峰の更なる成長、進化(4)

3. 新製品新技術の事業への投入(2)  
 ・ 新型機器の導入(2010年度上半期導入機種)

### 分級機構内蔵型高速回転式衝撃粉碎機: ホソカワ/マイクロACMバルベライザ(オールセラミックス型)

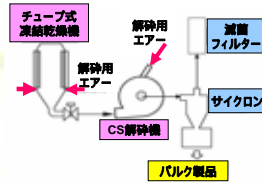
特徴: 金属コンタミ(異物としての混入)「ゼロ」の高性能耐磨耗オールセラミックス  
 用途: 二次電池の正極、太陽電池、コンデンサーなど金属コンタミネーションを嫌う  
 高付加価値材料の微粉砕  
 価格: システム 30百万円～60百万円



### 新しい凍結乾燥粉碎システム～密閉型凍結乾燥無菌粉末製造システム～ 第7回新機械振興賞“グランプリ”(経済産業大臣賞)受賞



共和真空技術(株)様との共同開発



特徴: 内部に駆動部、摺動部、回転部などを一切持たない、画期的な凍結乾燥機と粉碎設備とを結んだ連続無菌製剤製造システム  
 用途: 医薬品  
 価格: システム 90百万円

経営課題 / 第13次中期(平成21年度～23年度)計画 課題と進捗状況

## 粉体技術連峰の更なる成長、進化(5)

4. 人材の開発、登用の積極化  
 ・ 新人事評価制度の導入(2011年10月)に向けて検討開始  
 ・ 国際人材の育成制度導入。
5. グローバル経営の効率化と積極化  
 ・ 事業の統廃合  
 ・ アジア市場の強化(アジアプロジェクトを組織し立案、推進中)  
 ・ “グループ力”の強化/活用

### 国際医薬工業展(中国)への出展



### プラスチック薄膜関連事業展示会 “インフレーション多層フィルム成膜展示会”開催



展示会概要:  
 3層マスクフィルム、  
 3層パウチフィルム  
 および7層ハイ-バリアフィルムの  
 成膜実演デモンストレーション並びに  
 技術講演会  
 開催日: 2009年11月24日～26日  
 開催場所: ホソカワミクロン㈱  
 枚方フィルムテストセンター  
 参加企業数: 34社(180人)  
 参加国数: 中国、マレーシア、ベトナム、  
 韓国、日本  
 共催: エクソン・モービル社

経営課題 / 第13次中期(平成21年度~23年度)計画 課題と進捗状況

粉体技術連峰の更なる成長、進化(6)

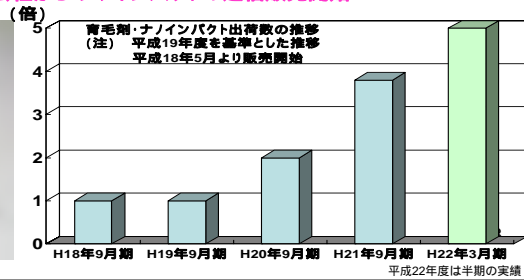
- 6. ナノマテリアル事業の強化
  - ・マテリアル事業本部及び粉体工学研究所の協業により、販売・研究の両面から推進中。
- 7. アライアンス、M&Aを活用した事業成長
  - ・育毛剤販売事業でサントリーウエルネス社様と販売提携

高浸透型育毛促進剤

薬用 ナノインパクト WTera & 薬用 ナノインパクト WTera レディ(2010年1月発売開始)

特徴: PLGAナノ粒子を160nmと更に微細化(従来品 200nm)  
 1回使用量当たりのナノ粒子個数が1.8兆個から2.0兆個へ。

協業: サントリーウエルネス株式会社から ナノインパクトの通信販売開始



今後の展望 / まとめ(平成22年度の予想)

(単位:百万円)

	平成22年 上半期		平成22年 下半期(予想)		平成22年 通期(予想)		対前年通期
	実績	%	予想	%	予想	%	
売上高	14,415	100.0	17,085	100.0	31,500	100.0	90.3%
営業利益	468	3.2	818	4.8	350	1.1	25.2%
経常利益	465	3.2	765	4.5	300	1.0	23.0%
当期純利益	543	3.8	643	3.8	100	0.3	20.9%

社  
是

創造の精神

和と誠意と積極性

来たらざるを

待む勿れ

我に備えあるを待む

**ご静聴、ありがとうございました。**

なお、本資料に記載されている業績予想、将来予想は現時点における事業環境に基づき当社が判断した予想であり、今後の事業環境により実際の業績と異なる場合があることをご承知おき下さい。